



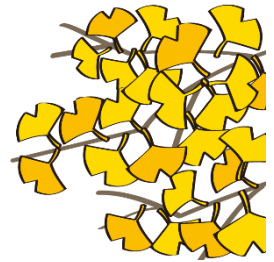
# 校長室だより

令和2年11月2日(月)

桶川市立桶川西中学校  
校長 相澤 仁志

## 11月(翻:しもつき) 3年生の進路選択に向けて

11月は旧暦で「霜月(しもつき)」とも言います。旧暦でこの月は、文字通り霜が降りる日が多くなるので、こう呼ばれるようになったとされています。また、その年の収穫を神に感謝する新嘗祭(にいなめさい)などの行事が多く行われていたことから「食物月(おしものつき)」と呼ばれ、そこから転じたという説もあります。どちらにせよ、これからの季節は実りの秋を終えて、冬を迎える時期になります。今年はインフルエンザだけではなく、新型コロナにも気をつけながらの毎日になります。今月も引き続き感染症対策等、子供たちの健康管理に気を配りながら西中での教育活動を進めてまいります。



さて、本校では11月に予定されていた3年生の修学旅行を中止としました。理由は、新型コロナウイルス感染症の感染が収まらない状況が続いていることから、子供たちの健康と安全を第一に考えた結果です。楽しみにしていた子供たちも多く、残念そうにしていますが、現時点における最善の方法であると判断しました。代替の行事は検討中ですが、進路選択を終えた時期に、安全で全員が参加できる内容で実施していきたいと思えます。

その3年生ですが、いよいよ今月より進路選択についての三者面談が始まります。三者面談は、12月、2月と計3回計画しており、その中で、進学するか就職するか、進学するとしたら公立か私立か、合格の可能性とこれから頑張ることなどが、話し合われます。子供たちにとっては、自分の人生について本気で向き合う時期になります。

現在中学校では、進路に関わる指導をキャリア教育と呼び、目先の進学先だけではなく、生涯にわたってどのように生きていくのかを考えさせ、一人一人の子供たちに将来の社会的、職業的自立に向けて、必要な能力や態度を育てる学習をしています。本校では、1年生では、「職業調べ」を行い、働くことの意義や職業の多様性を学びます。続いて2年生では、「職場体験学習」を行い、実際に働く体験を通して、自分の将来の職業について考えさせます。そして3年生では、実際に自分の将来を考えながら、中学卒業後の進路を決めていくことになっています。



子供たちにとって、希望と不安が入り混じり、気持ちも何かと落ち着かなくなる時期ですが、長い人生の中で、誰もが経験することです。子供たちが自分自身の道を見つけ、しっかりと歩いていけるよう最後まで適切に支援して参ります。保護者、地域の皆様におかれましても、引き続きご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。